

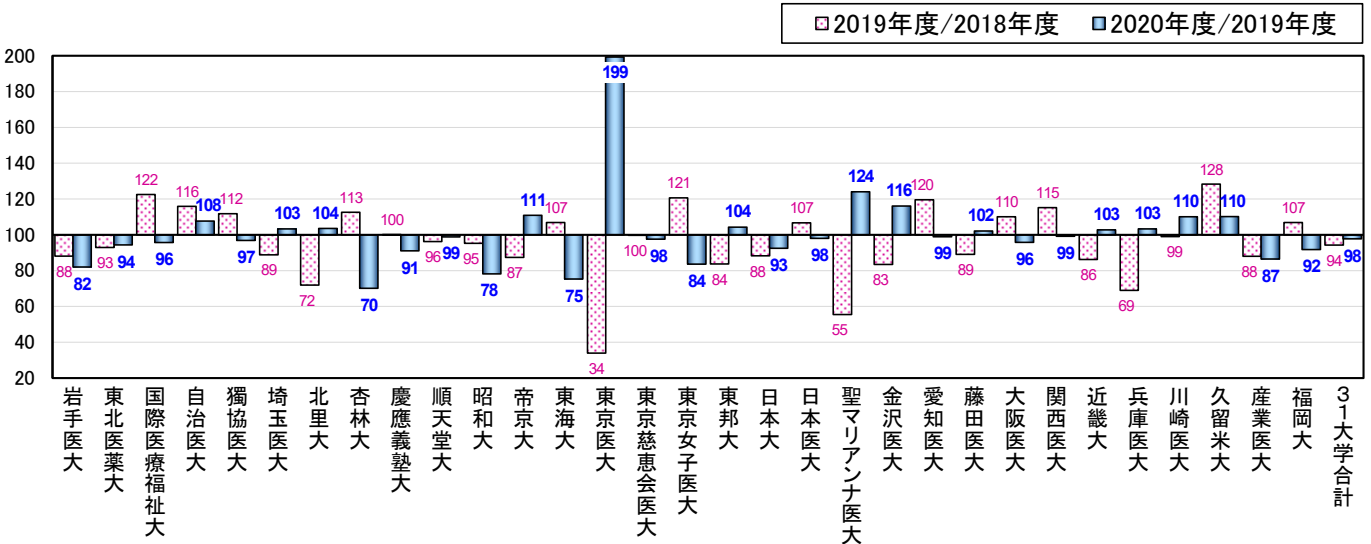
2020 年度入試状況分析【私立大】

◎医学部医学科志願状況

〔志願者数推移〕

	2020年度	増減数	指数	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度
募集人員	2,951	-18	99	2,969	3,037	3,024	2,904	2,791	2,770	2,742	2,725
志願者数	100,580	-2,327	98	102,907	109,170	108,181	105,855	104,558	104,140	91,701	80,128
志願倍率	34.08			34.66	35.95	35.77	36.45	37.46	37.60	33.44	29.40

〔大学別志願状況〕



※前年度を100とする指数

私立大医学部医学科(以下「医学部」)31大学合計の志願者数は、100,580人(98)で前年度よりわずかに減少して、2年連続減少となりました。医学部新設などで入学定員が増加して現役合格率がアップしたことで、既卒志願者が減少していることから、全体の医学部志願者数が減少していることに加え、理系成績上位の受験生が人気の高まっている理・工系に移ったことも影響しています。

大学別では、東京医科大(199)の倍増が抜き目立ちました。前年度の激減の反動がはっきりと表れましたが、一般方式(198)は前年度の追加合格者受け入れで半減した募集人員が元に戻ったことで、志願倍率はほとんど変わらず、競争は前年度並でした。他の増加した大学では、聖マリアンナ医科大(124)、金沢医科大(116)が大幅増加しました。聖マリアンナ医科大は4年ぶりに増加しましたが、1次試験が2年ぶりの単独実施となったことが要因です。金沢医科大は前年度大幅減少の反動で大幅増加しました。

一方で、杏林大(70)、東海大(75)、昭和大(78)はいずれも1,200人以上の大幅減少でしたが、杏林大は廃止された一般方式の<後期>を除くと、(100)の前年度並でした。東海大は前年度大幅増加の反動で、3年連続で大幅な増減となりました。6年間の学費総額が500万円アップの昭和大は4年連続減少となりました。また、岩手医科大(82)は全国から出願可能な<地域枠C>を導入しましたが、大学合計での志願者数は大幅減少し、3年連続減少しました。

2020 年度入試状況分析【私立大】

〔大学別分析〕

※表内の略語・記号は以下を表しています。

「セ」…センター利用方式、「論」…小論文、「面」…面接、「調」…調査書

「□」…方式合計の数値

大学	日程・方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
岩手医科大	大学合計	-531	82	85	2,420	90	2,951	<変更点><地域枠C(全国枠)>(5人)新規実施 募集人員:<一般>90人→80人 2次試験の論を段階評価、面を点数化(50点) 大学合計では、531人(82)の大幅減少で、3年連続減少だが、既存の<一般>(82)は募集人員減少のため、志願倍率は32.8倍→30.1倍と2.8ポイントダウンに留まった。	
	一般	-545	82	80	2,406	90	2,951		
	地域枠C	+14	新規	5	14				
東北医科薬科大	一般枠	-98	94	45	1,642	45	1,740	<変更点>1次試験会場に札幌会場追加 論の実施:1次試験→2次試験 4年連続減少。1次試験を1週間早めて、日程重複の他大学は3大学から2大学になったが、前後の日程で1次試験実施大学が多かったことで、減少が継続。	
	修学A			35		35			
	修学B			20		20			
国際医療福祉大	大学合計	-171	96	120	3,859	120	4,030	大学合計では、171人(96)のやや減少で、2年ぶりに減少。2方式とも減少したが、センター利用方式(90)は初の減少。	
		-61	98	105	2,887	105	2,948		
	セ	-110	90	15	972	15	1,082		
自治医科大		+194	108	123	2,728	123	2,534	3年連続増加。	
獨協医科大	大学合計	-113	97	83	3,556	80	3,669	<変更点><一般>:論は1次試験から2次試験での実施へ <セ>:2次試験の論除外 募集人員:<栃木県枠>7人→10人 大学合計では、113人(97)のやや減少で、3年ぶりに減少。<栃木県枠>(111)は2年連続増加だが、募集人員増加のため、志願倍率は45.6倍→35.5倍とダウン。	
		-70	97	58	2,095	58	2,165		
	セ	-79	93	15	1,106	15	1,185		
	栃木県枠	+36	111	10	355	7	206		
埼玉医科大	大学合計	+163	103	97	5,080	100	4,917	<変更点><セ・後期>廃止 募集人員:<後期>36人→35人 大学合計では、163人(103)のやや増加で、2年ぶりに増加。方式別では、<前期>(125)は大幅増加で、4年ぶりに増加。1次試験の日程重複の他大学が前年度の北里大、近畿大、川崎医科大から東北医科薬科大、関西医科大になったことが影響。一方で、<後期>(92)は4年連続減少。	
	前期	+394	125	52	1,974	52	1,580		
	後期	-202	92	35	2,259	36	2,461		
	セ	+6	101	10	847	10	841		
	後期	-35	廃止			2	35		
北里大	大学合計	+68	104	74	1,970	84	1,902	<変更点><茨城県枠><山梨県枠>:指定校推薦での募集に変更 募集人員:<一般>78人→72人 大学合計では、68人(104)のやや増加で、3年ぶりの増加。前年度大幅減少の反動は小さかった。	
		+107	106	72	1,886	78	1,779		
	相模原枠	-21	80	2	84	2	105		
	茨城県枠	-7	指定校推薦に変更			2	7		
	山梨県枠	-11				2	11		
杏林大	大学合計	-1,430	70	113	3,364	111	4,794	<変更点><後期><茨城県枠>廃止 <セ・後期>(5人)新規実施 募集人員:<一般>79人→88人 大学合計では、1,430人(70)の大幅減少だが、廃止の<後期>を除くと、(100)の前年度並。既存の一般方式(106)はやや増加。1次試験での日程重複が前年度の3大学から東海大の1次試験日自由選択の2日目のみになったことが要因だが、募集人員増加のため、志願倍率は23.7倍→23.4倍とわずかにダウン。	
		+130	106	88	2,290	79	2,160		
	東京都枠			10		10			
	茨城県枠		廃止			2			
	後期	-1,439	廃止			10	1,439		
	前期	セ	-160	87	10	1,035	10		1,195
	後期	セ	+39	新規	5	39			
慶應義塾大		-137	91	66	1,391	68	1,528	<変更点>募集人員:68人→66人 最難関大を敬遠する傾向が影響し、2年ぶりに減少。	

2020年度入試状況分析【私立大】

大学	日程・方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
順天堂大	大学合計	-47	99	127	4,045	135	4,092	<変更点>募集人員:<A方式>61人→63人 <B方式>10人→5人 <セ・一般独自>20人→15人 大学合計では、47人(99)の微減だが、3年連続減少。細かい方式別では、<B方式>(72)は大幅減少だが、募集人員が半減したため、志願倍率は32.3倍→46.6倍とアップ。	
	A方式	+61	103	63	2,022	61	1,961		
	B方式	-90	72	5	233	10	323		
	前期	セ	+42	106	10	711	10		669
	併用	セ	-26	96	15	623	20		649
	東京都枠	セ	+23	111	10	233	10		210
	新潟県枠	セ			2		2		
	千葉県枠	セ			5		5		
	埼玉県枠	セ			7		7		
	静岡県枠	セ			5		5		
後期	セ	-57	80	5	223	5	280		
昭和大	大学合計	-1,231	78	107	4,419	110	5,650	<変更点>学費改定(6年間総額:2,200万円→2,700万円) 募集人員:<I期>78人→75人 大学合計では、1,231人(78)の大幅減少で、4年連続減少。3方式全てが減少し、<I期>(74)、<セ・B地域別>(77)は大幅減少。	
	I期	-923	74	75	2,643	78	3,566		
	II期	-225	87	20	1,497	20	1,722		
	B地域別	セ	-83	77	12	279	12		362
帝京大	大学合計	+913	111	108	9,309	110	8,396	<変更点><研究医枠>:入学後の募集に変更 募集人員:<千葉県枠>5人→2人 *福島県地域枠推薦入試の欠員分を募集 大学合計では、913人(111)の増加で、2年ぶりに増加。志願者数は2年ぶりに9,000人を上回った。一般方式(115)は、1次試験での日程重複の他大学が試験日自由選択の1・2日目で、いずれも前年度の3大学ずつから自治医科大のみになったため、大幅増加。	
		+1,098	115	91	8,229	89	7,343		
	福島県枠			* 2	51				
	千葉県枠			2	65	5			
	静岡県枠			2	69	2			
	茨城県枠			1	27	1			
	研究医枠					3			
前期	セ	-185	82	10	868	10	1,053		
東海大	大学合計	-1,581	75	78	4,836	78	6,417	大学合計では、1,581人(75)の大幅減少で、3年連続で大幅な増減となった。方式別では、<セ・神奈川県枠>(126)は大幅増加したが、他の3方式はいずれも大幅減少。センター利用方式(82)は大幅減少で、2年連続減少。	
	A方式	-1,302	74	60	3,659	60	4,961		
		セ	-261	78	10	903	10		1,164
	神奈川県枠	セ	+31	126	5	151	5		120
	静岡県枠	セ	-49	72	3	123	3		172
東京医科大	大学合計	+1,303	199	90	2,616	52	1,313	<変更点>2次試験の適性検査廃止、論と面を点数化(論60点、面40点) *茨城県地域枠推薦入試の欠員分を募集 大学合計では、1,303人(199)のほぼ倍増。前年度激減の反動だが、それでも2018年度の約68%に留まった。一般方式(198)は前年度追加合格者受け入れで半減した募集人員が元に戻ったことで、競争は前年度並。一方で、センター利用方式(202)は募集人員が約17%増に留まっており、志願倍率は28.9倍→50.0倍と大幅アップ。	
		+950	198	75	1,916	38	966		
	茨城県枠			* 1		* 2			
東京慈恵会医科大	大学合計	-48	98	110	1,963	110	2,011	<変更点>英語外部試験成績提出の場合は2次試験の評価の参考にする 2次試験の論、面、調を点数化(論30点、面・調各25点) 大学合計では、48人(98)の微減で、7年連続減少。	
		-61	97	105	1,864	105	1,925		
	東京都枠	+13	115	5	99	5	86		
東京女子医科大		-271	84	75	1,390	75	1,661	前年度大幅増加の反動に加え、1次試験が前年度の単独実施から藤田医科大と重複したことで大幅減少。	
東邦大	大学合計	+116	104	90	2,789	115	2,673	<変更点>募集人員:<一般>110人(付属校推薦者含む) →<一般>85人、<付属校推薦>25人 ※<付属校推薦>での入学予定者が25人に満たない場合は<一般>の募集人員に充当 前年度大幅減少の反動で、やや増加。	
	一般	+23	104	85	2,696	110	2,673		
	千葉県枠	+93		5	93	5			

2020年度入試状況分析【私立大】

大学	日程・方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
日本大	大学合計	-298	93	107	3,681	102	3,979	<p><変更点>募集人員:<A方式>92人→97人 2次試験の論、面を点数化(合計で30点)</p> <p>大学合計では、298人(93)の減少で、2年連続減少。方式別では、<A>(90)は4年連続減少。<N1期>(121)は1次試験で、日程重複する他大学が3大学から2大学になったことに加え、前年度大幅減少の反動で、大幅増加。</p>	
	A方式	-376	90	97	3,226	92	3,602		
	N1期	+78	121	10	455	10	377		
日本医科大	大学合計	-80	98	124	4,116	121	4,196	<p><変更点><後期>(10人)、<前期・地域枠>(計10人)、<後期・地域枠>(計6人)新規実施 募集人員:<前期>90人→81人 <後期>21人→17人</p> <p>大学合計では、80人(98)の微減で、2年ぶりに減少。新規実施の<地域枠>を除くと、502人(88)の減少。既存の3方式は全て減少。<前期>(93)はやや減少で、2年連続減少したが、募集人員減少のため、志願倍率は25.4倍→26.3倍とアップ。<後期>(87)は2017年度に導入されてから初めて減少したが、募集人員減少のため、志願倍率は65.5倍→70.6倍とアップ。</p>	
	前期	-158	93	81	2,129	90	2,287		
	後期	-174	87	17	1,201	21	1,375		
	前期・埼玉県枠	+124	新規	3	124				
	後期・埼玉県枠			1					
	前期・千葉県枠	+164	新規	4	164				
	後期・千葉県枠			3					
	前期・静岡県枠	+104	新規	3	104				
	後期・静岡県枠			1					
	後期・福島県枠	+30	新規	1	30				
後期併用	セ	-170	68	10	364	10	534		
聖マリアンナ 医科大		+456	124	80	2,355	85	1,899	<p><変更点>募集人員:85人→80人 2次試験の論、面の配点:論 110点→50点 面 100点→150点</p> <p>大幅増加で、4年ぶりに増加。1次試験が2年ぶりの単独実施となったことが要因だが、志願者数は2018年度の70%弱に留まった。</p>	
金沢医科大	大学合計	+640	116	75	4,623	75	3,983	<p><変更点><前期>:理科配点・試験時間 200点・120分 →150点・90分</p> <p>大学合計では、640人(116)の大幅増加。<前期>(125)は前年度大幅減少の反動で、大幅増加。<後期>(103)は2年連続やや増加。</p>	
	前期	+598	125	65	3,038	65	2,440		
	後期	+42	103	10	1,585	10	1,543		
愛知医科大	大学合計	-37	99	90	3,416	90	3,453	<p>大学合計では、37人(99)の微減で、2年ぶりに減少。全方式が減少したが、<セ・特別枠B>(92)以外はいずれも(99)の微減。</p>	
		-22	99	65	2,360	65	2,382		
	前期	セ	-11	99	15	955	15		966
	後期	セ	-1	99	5	68	5		69
	特別枠B	セ	-3	92	5	33	5		36
藤田医科大	大学合計	+66	102	105	3,204	105	3,138	<p><変更点><セ・後期>:英語外部試験の利用可に 募集人員:<後期><後期愛知県枠><セ・後期> 計15人→各5人</p> <p>大学合計では、66人(102)の微増で、2年ぶりに増加。方式別では、一般方式(109)が増加、センター利用方式(82)は大幅減少と対照的。</p>	
	前期	+110	107	75	1,742	75	1,632		
	前期愛知県枠			5		5			
	後期	+102	114	5	818	□ 10	716		
	後期愛知県枠			5		5			
	前期	セ	-113	84	10	596	10		709
	後期	セ	-33	59	5	48	□ 10		81
大阪医科大	大学合計	-135	96	109	3,088	109	3,223	<p><変更点><研究医枠>廃止 募集人員:<前期>85人→82人 <セ>5人→10人</p> <p>大学合計では、135人(96)のやや減少で、2年ぶりに減少。方式別では、一般方式(99)は微減だが、募集人員減少のため、志願倍率は21.2倍→22.3倍とアップ。センター利用方式(96)はやや減少で、2年連続減少だが、募集人員増加のため、志願倍率は93.2倍→44.9倍と大幅ダウン。</p>	
	前期	-15	99	82	1,871	85	1,886		
	地域枠			2		2			
	研究医枠		廃止			2			
	後期	-103	88	15	768	15	871		
		セ	-17	96	10	449	5		466

2020年度入試状況分析【私立大】

大学	日程・方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
関西医科大	大学合計	-30	99	117	3,931	112	3,961	<変更点><セ・後期>(一般・後期との合計で10人)、<新潟県枠>(前期・後期合計で2人)新規実施 募集人員:<前期>86人(地域枠含む)、<後期>6人(地域枠含む)、<セ>10人 →<前期>72人、<地域枠>15人(前期・後期合計)、<後期>10人(<セ・後期>と合計) 大学合計では、30人(99)の微減だが、2年ぶりに減少。新規実施の<セ・後期>を除くと、(98)の微減。	
	前期	-254	88	72	1,796	92	2,050		
	前期・新潟県枠			□ 2					
	前期・静岡県枠			□ 8					
	前期・大阪府枠			□ 5					
	後期	+230	150	□ 10	691		461		
	後期・新潟県枠			□ 2					
	後期・静岡県枠			□ 8					
	後期・大阪府枠			□ 5					
	前期	セ	-20	98	10	833	10		853
	後期	セ	+49	新規	□ 10	49			
併用	セ	-35	94	10	562	10	597		
近畿大	大学合計	+77	103	70	2,923	85	2,846	<変更点>募集人員:<前期A>65人→55人 大学合計では、77人(103)のやや増加で、6年ぶりに増加。方式別では、<前期A>(93)のみやや減少したが、募集人員減少のため、志願倍率は20.4倍→22.5倍とアップ。	
	前期A	-91	93	55	1,236	65	1,327		
	後期	+103	116	5	758	5	655		
	C前期	セ	±0	100	5	600	10		600
	C中期	セ	+53	129	3	236	3		183
	C後期	セ	+12	115	2	93	2		81
兵庫医科大	大学合計	+66	103	95	2,069	95	2,003	<変更点>1次試験の名古屋会場廃止 <A兵庫県推薦枠>(5人)新規実施 募集人員:<A一般枠>85人→80人 <A>:2次試験の面、調を点数化(計100点) 大学合計では、66人(103)のやや増加で、2年ぶりに増加。<A>の2方式になって2年目だが、(181)が激増、<A>(97)はやや減少と対照的。	
	A一般枠	-56	97	80	1,796	85	1,852		
	A兵庫県推薦枠	±0	新規	5					
	B	+122	181	10	273	10	151		
川崎医科大	大学合計	+146	110	74	1,588	76	1,442	<変更点>募集人員:<長崎県枠>6人→4人 大学合計では、146人(110)の増加で、2年ぶりに増加。4方式全てが増加。	
		+114	109	50	1,404	50	1,290		
	静岡県枠	+7	111	10	70	10	63		
	岡山県枠	+11	115	10	85	10	74		
	長崎県枠	+14	193	4	29	6	15		
久留米大	大学合計	+277	110	80	2,997	90	2,720	<変更点><福岡県枠>:一般選抜→推薦入試 募集人員:<前期>80人→75人 <前期>:面を点数化(50点) 大学合計では、277人(110)の増加で、4年連続増加。<前期>(114)は増加に加え、募集人員減少もあって志願倍率は22.5倍→27.4倍とアップ。	
	前期	+258	114	75	2,056	80	1,798		
	後期	+74	109	5	941	5	867		
	福岡県枠	-55	推薦に変更			5	55		
産業医科大	セ	-252	87	85	1,616	85	1,868	2年連続減少。	
福岡大	大学合計	-322	92	70	3,596	80	3,918	<変更点>募集人員:<系統別>70人→60人 <系統別>:2次試験の論、調の点数化廃止 <セ・I期>:2次試験の調の点数化廃止 大学合計では、322人(92)の減少で、4年ぶりに減少。2方式とも減少し、<系統別>(94)は2年ぶりに、<セ・I期>(87)は4年ぶりに減少。	
	系統別	-187	94	60	2,729	70	2,916		
	I期	セ	-135	87	10	867	10		1,002

2020 年度入試状況分析【私立大】

〔志願者数が多かった大学〕

大学	志願者数
帝京大	9,309 (108)
埼玉医科大	5,080 (97)
東海大	4,836 (78)
金沢医科大	4,623 (75)
昭和大	4,419 (107)

〔増加数が多かった大学〕

大学	増減数
東京医科大	+1,303
帝京大	+913
金沢医科大	+640
聖マリアンナ医科大	+456
久留米大	+277

〔志願倍率が高かった大学〕

大学	志願倍率
帝京大	86.2
東海大	62.0
金沢医科大	61.6
埼玉医科大	52.4
福岡大	51.4

〔志願者数が少なかった大学〕

大学	志願者数
東京女子医科大	1,390 (75)
慶應義塾大	1,391 (66)
川崎医科大	1,588 (74)
産業医科大	1,616 (85)
東北医科薬科大	1,642 (100)

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数
東海大	-1,581
杏林大	-1,430
昭和大	-1,231
岩手医科大	-531
福岡大	-322

〔志願倍率が低かった大学〕

大学	志願倍率
東北医科薬科大	16.4
東京慈恵会医科大	17.8
東京女子医科大	18.5
産業医科大	19.0
慶應義塾大	21.1

※いずれも大学合計の数値で算出。()内は募集人員を示す。